



▲赤線で囲んだ部分が発寒鉄工団地と発寒鉄工関連団地を合わせた地域。約140の企業の工場や倉庫などが集まり市内の工業地域としては最大規模を誇る

が行われる前の発寒には「三谷農場」があるだけで、広大な原野が広がる無人地帯でした。そのため、生活基盤はほとんど整っておらず、移転当初の操業には苦労も多かったようです。電気が引かれたのは昭和三十九年、上下水道の整備はそれからさらに二年後のこと。交通の便も悪く、最寄りの国鉄(今のJR)琴似駅からマイクロバスなどで工場に通った人も多かったといえます。また、大雪が降ると車も走れない状態になり、何日も工場に泊り込むことがしばしばだったそうです。

発寒鉄工団地を 中心に街が発展

発寒鉄工団地への企業進出は昭和三十八年に始まり、昭和四十五年までに現在と同数の六十社が進出。それに伴って団地周辺の道路や街並みも整備されていきました。

また、団地で働く人が増えるに従って、工場の東側(現在の鉄興公園の東側に共同住宅や、独身寮が建設され、住宅地としての整備

も進みました。団地周辺には、団地関係者が利用する食料品店や病院、日用雑貨店、食堂など生活に必要な施設も次々に完成。これらは、鉄工団地の組合が誘致したものや、鉄工団地関係者を客として見込んで出来たものがほとんどで、「鉄工ストア(食品・日用品店)」「鉄工団地診療所(病院)」「鉄工湯(銭湯)」など、「鉄工」の名称が付いたものも少なくありません。

このように、発寒は、発寒鉄工団地の建設以降急速に発展してきました。特に発寒の北西部は工場中心の街となっており、発寒鉄工団地が街をつくったと言っても過言ではありません。

発寒鉄工団地で 作られている物

発寒鉄工団地では何が作られているのでしょうか。下のグラフからも分かる通り発寒鉄工団地で製造されている物の多くは、建築物や機械の材料や部品です。これらは普段目にする事も少なく、なじみが薄いかもしれませんが、発寒鉄工団地

の中には、私たちが日常生活でよくお世話になっている物を作っている企業もあります。その一つを紹介しましょう。

道内で唯一の 除雪車両メーカー

(株)協和機械製作所は昭和十四年創立の金属機械メーカー。昭和四十年から発寒鉄工団地で操業を続けており、現在は除雪車などの特殊車両や除雪装置を製作・販売しています。雪を鉄板でかき出す方式(ブラウ式)の除雪車を作っているのは、現在、道内では同社のみ。市内の一般道路の除雪に当たっているブラウ式除雪車のほとんどが同社で製作されたものです。

【発寒鉄工団地の業種構成】

